



神奈川歯科大学附属病院

ニュースレター

2022年1月1日発行 5号

2022年 新たなスタート

人工知能 (AI) を用いた脳・メモリードック

神奈川歯科大学歯学部臨床系医科学講座
認知症・高齢者総合内科教授 **眞鍋雄太**

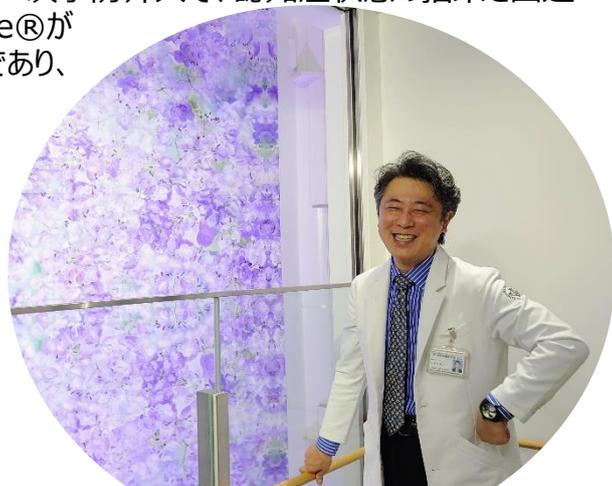
新年、明けましておめでとうございます。

人工知能 (AI) が自ら知能を生み出し、技術的特異点に達するまで、あと 23 年。臨床場面でも、AI の活用をみるようになりました。その一つが、神奈川歯科大学附属病院の脳・メモリードックで活用される脳 MRI 画像 AI 診断プログラム、Brain Suite® です。被検者の海馬体積、年齢や生活習慣、認知機能評価の結果等を AI により解析。現在の脳の健康状態および将来の認知症リスクを評価し、「認知症予防」のための具体的なアドバイスを個別に提供するプログラムです。認知症性疾患の一次・二次予防に相応しい脳・メモリードックと言えるでしょう。

ところで、「認知症予防」という用語。大きな問題を有する言葉だということをご存知でしょうか。そもそも認知症とは、何等かの疾患が原因となり社会生活に支障を来した状態を指す“病態名”であり、原因疾患名ではありません。従って、原因疾患毎に病変主座は異なる為、認知症の症状もそれに応じた内容となります。前頭側頭葉変性症やレビー小体病の場合、海馬領域は病変主座でないことから、病期が進行するまで記憶のドメインに障害は認められず、現状、有効な予防手段に関する知見もありません。これに対して、アルツハイマー病 (AD) が原因のアルツハイマー型認知症は海馬領域が病変主座である為、病的な物忘れを認めることとなります。また、口腔機能への早い時期からの一次予防介入で、認知症状態の招来を回避する可能性を持つ認知症性疾患でもあります。Brain Suite® が読む未来は、海馬領域に病変主座を有する疾患に対してであり、AD 及び AD 関連疾患に限られることを理解しておかなければなりません。

「認知症予防」という用語が有する問題点、ご理解頂けたのではないのでしょうか。

AI 時代ではあっても、まずは正確な知識こそが「認知症予防」の第一歩という訳です。時代に踊らされることなく地道に。本年も認知症・高齢者総合内科を宜しくお願い申し上げます。



病院 3 階 ジャカランダレリーフの前



歯科診療科のご紹介

FDIは2002年に新しい齲蝕治療のあり方として Minimal Intervention を提案し、2016年にはより具体的な内容の Minimal Intervention Dentistry (MID)に改めました。当科におきましても MID のコンセプトすなわち齲蝕病変の再石灰化、健全歯質の最大限の保存、あるいは補修修復を重要視しながらの通常の齲蝕治療の他、審美性に優れた自費コンポジットレジンやセラミックインレー、各種ホワイトニング治療（ホーム、オフィス、デュアル、ウォーキング）などを行っています。当科には歯科審美学会認定医の資格を有する歯科医師が3名在籍しており様々な治療法を患者様にご提案しながら満足度を高めた診療を進めております。また、多発齲蝕や歯科恐怖症など、一般の開業医様では治療が困難な患者を受け入れ、笑気、静脈内鎮静、あるいは全身麻酔下での診療を行っています。さらには口臭の気になる方にはオーラルクロマを用いた口臭検査も実施しています。当科は特定非営利活動法人日本歯科保存学会の認定研修施設として認定されておりますので、認定医や専門医を目指す先生方には附属病院臨床専攻生として受け入れが可能です。今後とも皆様方との連携を深めるとともに、常に患者様の気持ちに寄り添いながら微力ではございますが地域医療へ貢献できますよう尽力してまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



保存・修復診療科

診療科長 向井義晴

046-822-8880

歯周病は細菌性プラークが引き起こす感染症であり、日本人が歯を失う最も大きな原因でもあります。歯科疾患実態調査によると歯周病の有病率は45歳以上で過半数を超えとも言われています。また、全身の健康とも密接に関係していることが近年明らかにされています。特に、糖尿病や高血圧症をはじめとする生活習慣病と歯周病は関連性が深いとされています。

歯周病の治療には適切な診断、原因除去および生活習慣改善が必要です。当科では患者さまの口腔・全身状態に応じて、医科を含む専門診療科と協力しながら治療計画を立てます。当科の特徴として、

- ① 中等度以上に進行した歯周病には必要であれば歯周外科治療を
- ② 失われた歯周組織を回復するための治療には歯周組織再生療法を
- ③ 口腔内の環境改善や審美障害の改善を図る歯周形成手術を行います。

このような治療には専門的知識と技術が必要とされますが、当診療科は特定非営利法人日本歯周病学会の研修施設であり、歯周病指導医・専門医・認定医が数多く在籍しています。それゆえ、専任スタッフによる安全かつ安心な歯周病治療を実施しております。

当科はこのように専門性の高い治療を患者様に提供するとともに近隣の医療関係者の皆様とも連携を図り、最新の知見を共有することで地域医療に貢献できるように邁進してまいりたいと考えています。今後とも歯周病診療科をよろしくお願ひいたします。



歯周病診療科

診療科長代行 杉原俊太郎

046-822-8880

画像診断科（歯科）は特定非営利活動法人 日本歯科放射線学会の研修期間として認定されており、診断を行うスタッフは全員が指導医、専門医、あるいは認定医の資格を有しております。業務の主体は各診療科や他院から依頼された画像検査とその診断であり、日々100件程度の検査を実施しております。撮影業務は優秀な診療放射線技師5名が担ってくれています。

当科の特徴は、最新の画像検査装置であるCTやMRI、超音波装置による検査が可能で、ハイレベルの画像解析ワークステーションにより3次元構築や診断に必要な分析ができる点です。顎骨や顔面部に生じた嚢胞、腫瘍、炎症等の診断を得意としております。検査をご希望の患者様は当院の担当医や近隣の歯科医院の先生を通じて、検査のご予約を入れてください。

もう一つの特徴は、薬剤を使用しない口腔乾燥症治療を実施している点です。画像検査の技術を利用した治療法で、独自に開発したものです。放射線被ばくはもちろん無く、治療時の痛みもほとんどありません。全例に治療効果が得られる訳ではありませんが、約7割の患者様に改善がみられます。本治療は今後の高齢化によりさらに需要が高まると予想されますので、今以上に重点を置いて取り組んでいく予定です。

他科同様、地域医療に貢献できる診療科を目指しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

画像診断科（歯科）

診療科長 泉 雅浩

046-822-8895



歯科麻酔科は、手術室での口腔外科手術の全身麻酔を主に担当しています。外来では、インプラント手術などの小手術を受けられる患者様や歯科治療に恐怖心をもつ患者様が快適に処置がうけられるように鎮静法を提供するとともに、慢性的な口腔内の痛みやしびれに対する治療も行なっています。

1. 鎮静法について

鎮静法には吸入鎮静法と静脈内鎮静法の2つありますが、当科で実施する鎮静法は環境に優しく、麻酔効果が確実な静脈内鎮静法を実施しています。

静脈路を確保したのち、血圧や脈拍、酸素飽和度などを測定しながら、鎮静（麻酔）薬を投与します。現在鎮静法に用いる鎮静（麻酔）薬は比較的キレが良い（作用時間が短い）ので、多くの方は処置後1時間程度休憩すれば、ご帰宅いただけます。

2. 痛みやしびれの治療について

う蝕や歯周病などの病変がないにもかかわらず、口の中や舌、顔面に痛みやしびれがあり、なかなか原因がわかりにくい患者様を対象としています。具体的には三叉神経痛や末梢神経障害性疼痛、神経麻痺などの疾患に対し薬物療法や神経ブロック療法を行っています。

近隣の先生方と連携し、地域医療へ貢献できますよう尽力してまいります。上記の治療を必要とされる患者様がおられましたら是非ご紹介ください。



歯科麻酔科

診療科長 讃岐拓郎

046-822-8896



認知症・高齢者総合内科

診療科長 眞鍋 雄太

受付連絡先：046-822-8896

こんな症状 ありませんか？

記憶障害



- 何度も同じことを言う・聞く
- 直前の出来事を忘れてしまう

判断力障害



- 会話が成り立たない
- 季節に合わない服を着る
- 金銭の支払いに手間取る

見当識障害



- 日付・曜日がわからない
- 場所がわからない

睡眠障害

(レム睡眠行動障害)



- 寝言がひどい
- 寝ている間に手足をバタバタと動かしていることがある
- 攻撃的な夢をよく見る

運動障害

(パーキンソン症状)



- 転びやすくなった
- ちょっとした段差でつまづく
- 歩き難くなった
- 手や足が振える

自律神経症状

(慢性便秘)

- 便量が少なく、腹痛、腹部膨満感、残便感がある
- 便量が少なくスッキリしない



- ウサギの糞のような硬便

(起立性低血圧)

- 起き上がった時/立ち上がった時に立ちくらみやめまいがある(血圧低下によるもの)



精神症状

- 実際には見えないものが見えると本人は言う(幻視)



こんな症状にこころあたりがありましたら、是非一度「認知症・高齢者総合内科」
日本認知症学会専門医/レビー小体病専門医にご相談下さい。

地域連携室から

神奈川歯科大学附属病院では地域連携室で他医療機関からのご紹介や患者様からのご相談、予約管理に対応させていただきます。

お気軽にご相談下さい。

〒 238-8570

横須賀市小川町 1-23

神奈川歯科大学附属病院 地域連携室

電話 046-822-8877

FAX 046-822-8888

<http://www.kdu.ac.jp/hospital/>

